

審議会等の会議結果報告

1. 会議名	令和7年度第2回津市社会教育委員会
2. 開催日時	令和7年11月11日(火) 午前10時から午前11時45分まで
3. 開催場所	津市中央公民館 会議室
4. 出席した者の氏名	(社会教育委員) 赤塚委員、綺堂委員、辻本委員、古市委員、前田委員、水平委員、山野委員、井澤委員、伊東委員、樋口委員 (事務局) 教育長 森昌彦 学校教育部長 伊藤雅子 教育総務部次長 長脇弘幸 生涯学習課生涯学習・公民館事業担当副参事 (兼)中央公民館長 木田実 生涯学習課長 江角武 生涯学習課調整・生涯学習・公民館事業担当主幹(併)男女共同参画室男女共同参画担当主幹 山川晶子 生涯学習課生涯学習・公民館事業担当副主幹(兼)青少年・放課後子ども担当副主幹 松永正春 生涯学習課生涯学習・公民館事業担当主査 上田奈那子
5. 内容	(1) あいさつ (2) 東海北陸社会教育研究大会の報告について (3) これからの時代に即した社会教育活動について グループワーク ・みんながあつまる公民館 ・「つながる」ためにできること (4) 発表・質疑応答 (5) その他
6. 公開又は非公開	公開
7. 傍聴者の数	なし
8. 担当	教育委員会事務局教育総務部生涯学習課 生涯学習・公民館事業担当 電話番号 059-229-3256 E-mail 229-3248@city.tsu.lg.jp

議事の内容 下記のとおり

**事務局(副参事)**

おはようございます。お時間になりましたので始めさせていただきます。津市社会教育委員会の開催をさせていただきます。本日は、ご多忙中にもかかわらず、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。よろしく願いいたします。それでは、委員会の開催に先立ちまして、森教育長よりご挨拶申し上げます。

**森教育長**

おはようございます。大変お忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。本日の午前中、養正小学校でチューリップの贈呈式がありまして、植物はやはり寒暖差が大事であると話がありました。私たちは寒暖差で体調を崩しますが、寒暖差があるからこそ植物は育つそうです。イチゴの栽培を12月に向けて行っているようですが、この寒暖差が非常に良いということで、今年は期待していると聞きました。同じ生き物でも、植物と人間は違うと思いました。

さて、前回の会議で、東観中学校の取組を紹介しましたが、やはり、子どもの感覚は、大人をすごく元気づけると思います。今回は、盛んに文化祭が開かれている公民館の活動を紹介させていただきます。公民館の文化祭というと、大人が中心になっていますが、最近は、地域の中学生が、運営に

関わっております。先日も、久居の稲葉公民館と七栗公民館の文化祭で、久居西中学校の子どもたちがイベントのお手伝いをしたり、今年から司会もするというような取組をしています。地域と子どもの関わりが随分変わってきております。昨年度末に、地域とともにある学校づくりの研修会で、校長先生が、久居西中学校は学校運営協議会と生徒との間で話し合いをし、実践した内容をお話されてきました。そのような取組と地域コーディネーターがうまく繋がり、このような文化祭の取組もできていると思います。ある地域では、敬老会で中学生が参画したことで、高齢の方の様子が随分変わっていました。今まで敬老会というと、敬老の方が敬老会を運営するような図式になっていましたが、そこに中学生が入ることになり、今まで座席に自分で行くような方が、中学生がいるとニコニコしていました。つまり、中学生が入ることにより、地域の方々も元気になるのです。

先日、美術展の表彰式がありました。美術展の主催も高齢化しており、作品の展示や表彰式の運営も大変でしたが、中学生がボランティアとして参画することにより、随分雰囲気が変わっていました。結局、子どもが入ることにより、元気づき、地域が活性化されるということ、様々なところで見えるようになってきています。今日も、公民館のことや繋がるという点で、お話をいただきますが、1つの大きな視点として、子どもの参画について、ぜひ、議論を深めていただけると、大変ありがたいと思います。

また、中学校の部活動のあり方が変わります。来年の8月から休日の部活がなくなります。拠点型と言いまして、各種目、市内で拠点を設けてやりたい子どもたちは特定の場所で行います。津市は独特の方法ですが、他市は地域に放ってきています。津市の場合は、完全に地域に放していくと、子どもたちが路頭に迷ってしまいますので、しばらくは先生のお力も借りながら、拠点型という形で進めますが、スポーツを積極的にやりたい子はそれでも部活に行きます。しかし、そうではない子どもたちを私は凄く心配しています。今までの場合、中学生の子どもたちは、部活で忙しいからと考慮していましたが、その子どもたちの力を主体的にするのではなく、子どもたちが地域で生かされるようになると、良い循環で回っていくのではないかと思います。部活動のあり方が変わり、中学校の様々な地域への参画ということで、うまく進んでいくと考えています。

少子高齢化と言われる中で、公民館活動や地域活動、社会教育活動が、非常に難しい状況になってきていますが、どのように活性化していくかについては、やはり、子どもたちというキーワードが大きいと思います。

本日の会議では、様々なアイデアをいただき、新しい形で、お話いただきますので、皆様の様々なご経験、視点で、活発なご意見をいただきまして、今後社会教育の発展につなげていきたいと思っております。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

## 事務局（副参事）

本会議は津市情報公開条例第23条の規定に基づき公開とし、議事録は津市ホームページでも公開させていただきます。本日の会議は11時45分までの1時間45分を予定しており、会議終了後は委員の皆様同士で交流していただきたく、自由に情報交換をしていただく時間を設けさせていただきます。

本日の出席者は10名になります。委員の半数以上の方に出席していただきましたので、津市社会教育委員会運営規則第4条の第2項の規定により、会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。

それでは、運営規則第3条第3項により、委員長が会議の議長となると規定されておりますので、ここからは井澤委員長、よろしく申し上げます。

## 井澤委員長

おはようございます。それでは、事項書に従って進めてまいります。

事項書2、「東海北陸社会教育研究大会の報告について」、配布した資料と合わせてご報告させていただきます。

10月3日に樋口委員、長島委員、事務局の上田さん、私の4名で参加しました。では、代表して樋口委員からお願いします。

## 樋口委員

私の参加した分科会についてご報告させていただきます。第2分科会ということで、青少年の健全

育成、1番中心的な柱である地域学校協働活動について2つの地域から報告を受け、議論がありました。1つは、富山県の黒部市が、ユネスコの事業としてのジオパークの指定を受け、それを活用しています。元々ジオパークは、地域振興、観光ということで、持続的な活動ができるようにするというのですが、価値を持つ遺産を使っているということでした。元々は、市内の小学校の児童に、有名なトロッコ電車の体験乗車をずっとしていたようです。体験乗車は、令和に入ってから、体験だけでなく、鉄道会社のOBの方、あるいはジオパークのガイドさんを交えて、理科の学習を繋げた体験学習となりました。その地を生かした取組をされているということがよく分かり、鉄道会社のOBの方が参画するということが、企業も巻き込んだ取組となっています。

岐阜県の坂祝町では、地域学校協働本部が活発に働いており、学校運営協議会と地域学校協働本部が等しくありますが、坂祝町では、地域が協働本部に3つの委員会があり、ふるさと絆委員会、多文化共生委員会、地域・スポーツ委員会として、園、学校の支援をし、子どもたちに様々な学びの場を提供するということから、学校協働本部自体が非常に活性化されているという事例をお伺いしました。外国に繋がる方も8パーセントが人口の中に占めているということで、その子どもたちが、あるいはその子どもをどのように取り込んでいくかということ、そのために多文化共生委員会も作られているようです。たくさん入ってきて困るということではなく、共生して学校や地域とともにこうやっていくということと、地域学校協働の繋ぎを取るということもお伺いしました。

そして、教育長もおっしゃった、部活の地域移行もこちらで受け皿になっても良いということです。非常に、多岐にわたる団体の構成員の方が民間に入り、学校運営協議会と多岐にわたる方が参画をしていただいていることが非常に先進的だと思います。また、委員会同士のコラボの活動があり、親を繋いだり、外国の子どもや親を繋いでいることをしています。多様な子どもに学びの場を提供していく、あるいは皆さんに持っていくということが、多様な子どもの学びを保証することが出てきています。ただ、どこでも同じですが、若者の参画がなかなか難しいです。名古屋に近い団体もあるので、保護者が活動に参加してくれており、その方たちが親子を受け継いでいってほしいかということもおっしゃっていました。

ありがとうございました。

## 井澤委員長

ありがとうございました。続きまして、事務局からお願いいたします。

## 事務局（上田）

10月3日に東海北陸社会教育研究大会の全体会と第4分科会「地域の活性化」に参加させていただきました。午前に行われた全体会は、開会のことばかり始まりました。その中で、人々の暮らし方が多様になり、地域のつながり方が変わってきているため、今できることから工夫をして取り組んでいくことの必要性についてお話がありました。

記念講演は、岐阜大学社会システム経営学環教授の高木先生の発表で、「これからの『学び』について考える」という演題でした。土木計画学におけるまちづくりを専門としており、『ぎふ防災ハンドブック』を作成し、小学1年生に配布をしたり、TIKTOKを使用し、岐阜県のスポーツ選手に出演していただくといった防災教室を配信し、防災についての知識を楽しく分かりやすく広めているようです。様々な発信の方法がある中で、皆さんが取り組みやすく、興味を持っていただくための工夫がされていると感じました。また、小学2年生の児童が『しょうがっこうがだいすき』という絵本を出版したというお話を聞きました。これから小学生になる子どもたちへ、小学校生活を楽しく送るための16のアドバイスを自分の力で書き上げたものです。制作のきっかけは、親が本を出版したことで、その姿をみて、「私も書きたい!」と宣言し、このような本を書きたいと構想を語り、自分の経験を下の子たちに伝えたいと作成したようです。そのような話から、地域のリーダーは大人だけでなく、子どもや誰もがなることができるという素敵なお話の紹介がされました。コー・イノベーション大学のご紹介については、2026年に開校される予定となっており、学生が全国を回り、実践的な学びができるよう支援する大学です。これからの時代に必要な力を身に付けるため、共創する力と問いを立てる力を掲げ「教育をあたらしく、未来をあなたと共創していく」ということをテーマにしています。今ある課題を取り上げ、実践することで、問題解決能力の向上や地域活性化につながるというお話でした。

閉会行事では、令和8年度の三重大会に向けてということで、三重県社会教育委員連絡協議会の

山口会長より、ご挨拶がありました。社会教育の活動は1人ではできない、仲間が大切であるというお話をされ、三重県はおもてなしを基本にし、心に残る大会にしたいと意気込みを伝えていただきました。

第4分科会「地域の活性化」では、三重県名張市と岐阜県下呂市の話提供がありました。1つ目の名張市の発表では、平成23年に桔梗が丘の目指す将来像を定め、それに向けて毎年1つのプロジェクト事業を開始するという目標をしている、というお話でした。始めは何から始めたらよいのか戸惑いながらでしたが、できることを少しずつしてみようということで、今まで活動を続けられてきたようです。例えば、高齢化に伴い、団体の運営ができなくなった際には、似た取組をしている団体を統合し、1つの団体とし、運営できるようにしているようです。また、単にボランティアを募集するのではなく、具体的な内容を示して募集するなど、工夫した取組をしています。また、子育て世代や若者が興味を持ってもらうために、企画から運営まで行えるようにしておくことも大事というお話もありました。

2つ目の岐阜県下呂市金山町東地区については、「関係人口」を増やすことについて発表されました。「関係人口」とは、移住した「定住人口」や、観光で一時的に訪れる「交流人口」とは異なり、多様な形で特定の地域に関わる人々を言います。県外の学生など、「ヨソ者」の視点が地域の新たな魅力について気づかせてもらうことができ、地元の方も若者と関わりたいという気持ちから、良い時間を過ごすことができるというお話でした。地域に2週間の滞在をしていただき、もし住みたいと思った場合は、定住人口となりますが、それ以外の方でも、関わりが途絶えることなく、卒業生として、関係人口として地域を盛り上げてくれているということでした。また、今後は、短期間の滞在だけでなく、シェアハウス等も考えていきたいということでした。

この2つの事例の報告に対して、助言者からは、地域の特性や、自分たちができることを工夫して行っているという講評がありました。社会教育委員の役割については、テーマを持って研究を行い、活動をどのように広めていくか考えることが大事とされており、一緒に研究を進めることで、新しい活動が生まれたり、今ある活動を大きくすることができるのではないかとということでした。そして、今ある現状を捉え、地域に住んでいる人が自分事としてとらえ、人と人のつながりを大事にする必要があるとお話しされました。以上です。

## 井澤委員長

ありがとうございました。では、事項書3の、「これからの時代に即した社会教育活動についてグループ」です。事務局の方からご説明をお願いします。

## 事務局（副参事）

前回は、昨年度取り上げた議題を鑑みて「これからの時代に即した社会教育活動について」ということで皆様がたくさんのご意見をいただきました。資料2「令和7年度第1回社会教育委員会発言内容まとめ」にまとめました。前回の会議で様々なご意見をいただいたことから、事務局も、これからの未来に向けて、社会教育全般を良くしていきたいと改めて感じたところです。

テーマについては、前回の会議で出た「公民館らしく昔からあるイメージのままでは利用者の増加は見込みづらい」、「公民館で遊ぼうのような取組をやることで横のつながりができる」、「行こうかなと思わせる空間の居場所づくりが大切」などのご意見がありました。やはり、公民館は地域をつなぐために欠かせない居場所であるので、1つ目のテーマ「みんながあつまる公民館」についてご協議いただければと思います。

また、前回の会議で「地域おこしについて、誰が発信するか、どのように募集するかが課題である」「企画や運営と一緒に関わる経験が、将来の地域創生の担い手づくりに繋がる」「自分たちで行動できる仕掛けを作っていく」というご意見から、2つ目のテーマとして『「つながる」ためにできること』としました。地域でも、人と人のつながりが、地域のつながりへと広がっていくような仕掛けが必要と考えています。その仕掛けについて、大事だと分かったところですが、どのようなことをしたらよいのか、みなさんにヒントをいただきたいと思っています。

そこで、生涯学習課では、情報発信として、生涯学習情報バンクという登録制度の活用方法がありますので、後ほどご説明いたします。

それでは、資料3を基にこれら2つのテーマについてご説明します。まず1つ目のテーマ「みんながあつまる公民館」について担当から説明します。

## 事務局（松永）

中央公民館の松永です。みんなが集まる公民館について説明をいたします。

1つ目、津市公民館の機能と役割ということですが、今から9年前に新しい時代の津市公民館検討会という審議会を立ち上げさせていただき、10年後、20年後の公民館に求められる役割、機能等、将来の公民館の姿をご検討いただきました。

その中で、いただいた答申を基に公民館と機能と役割をまとめさせていただきました。まず、公民館の魅力を高め、新しい公民館づくりを進める。公民館は人と人をつなぐ機能が大切である。公民館長が受講生や就労生の仲間づくりを支援し、地域とつなぐコーディネーターの役割を果たすことが重要である。魅力ある公民館講座の企画運営を進める。それから、講座修了生による自主講座の育成支援です。私たち公民館職員の目指すべき姿として、このようなものを大切にしておりますので、最初にご紹介をさせていただいております。

次に、公民館の現状ということで2つの表を記させていただきますが、左側が公民館の利用回数、右側が講座数の一覧です。令和元年から令和6年度まで数字の整理をさせていただきましたが、令和元年と言いますと、コロナが始まった時期であり、公民館活動がかなり苦しい状態になりました。その後、元に戻そうということで職員は努力をしている状況であります。

利用回数をご覧くださいますと、有料と無料に分かれています。令和元年から数字が戻ってきてはいます。無料の方を見ていただくと、かなり元に戻ってきていますが、一方、有料の方はなかなか苦しい状況で、なかなか戻りません。無料と言いますと、例えば地域の各種自治会、あるいは社会教育関係団体、それから文化協会の皆さんがここに入ってまいります。有料の方は、一般の企業の利用もあれば、一般団体、自主講座の皆さんも半額ご負担いただくということで、有料の利用がなかなか戻っていないことが、これでご覧いただけたらと思います。

講座については、左側が公民館講座数、右が自主講座数です。公民館講座もかなり数字が戻っていますが、自主講座の方は、だんだんと減ってきており、非常に苦しい状況となっています。公民館講座というのは、学習ニーズに基づいて講座を開催をさせていただいていますが、学習活動とともに仲間づくりを非常に大切にしております。そこから自主講座という自主的な活動に進んでいただき、学んだものを、それを地域に還元していただきます。そして、学校施設あるいは福祉施設、地域活動など、様々なフィールドで、各公民館をベースとして活動していただくということが、公民館の1番大きな目標であり、大切な部分だと考えています。例えば津の公民館の場合は、津地域の全職員で自主講座の育成支援を頑張ろうということで話をさせていただき、力も入れていますが、なかなかすぐに結果が出ていません。これが苦しいところがございます。

最後に、特性のある取組ということで、各地域の公民館活動を掲載しています。今日の議論の参考にさせていただけたらと思います。

また、先ほど教育長の方から話もありましたように、子どもたちが、文化祭で新しい彩りを加えていただいております。非常に地域にとっては嬉しく、楽しい機会になったということで、感想を聞かせていただいております。そのように文化祭は少しずつ変わりつつあります。例えば、この中央公民館では、県内初の健康マージャン大会を開催します。これは明治安田生命と健康麻将協会とタッグを組み、初めての取組ですが、このようなことをすることで、今まで公民館を利用されていない方々が中央公民館に足を運んでいただければということを狙いとしての取組もございます。

このように各公民館の館長が工夫して公民館活動を進めていますが、どうしても公民館の職員は、公民館の目線で考えて運営をしておりますので、今日は、日頃、幅広いフィールドでご活躍をされている皆様から様々なご意見、気づきの点等を、教えていただけたら非常にありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

## 事務局（副参事）

では、2つ目のテーマ『「つながる」ためにできること』について担当から説明いたします。

## 事務局（上田）

それでは、『「つながる」ためにできること』について説明します。先ほども説明がありましたように前回の会議では、担い手不足や、仕掛け、情報発信、についてお話が出ていました。生涯学習課としても、人と人がつながり、そのつながったグループで地域に還元していただきたいと思っておりますが、まず、つながるためには情報発信や仕掛けが必要と考えられます。

実際にどのような発信方法が良いのか、検討しているところですが、1つ、活用できると思われる「生涯学習情報バンク」という登録制度を資料3でご紹介させていただいております。

合併前より、事務局側での管理のために登録制度が始まった生涯学習情報バンクは、「地域で文化、スポーツ、教養などの分野で指導できる人材」と、「学びたい人」を結びつける制度です。実際に、事務局としては、登録手続きをし、HPに掲載し、団体について問い合わせがある場合には、登録団体と問い合わせの方を繋いでいます。過去には、団体が集まる研修会が開催されたり、冊子を配布していたりと、登録について多くの問い合わせがあったようですが、現在は、問い合わせが少なく、生涯学習情報バンクに登録されている方同士が集まることもなくなっております。

そこで、外を繋ぎ、市全体、地域全体に広げていくためには生涯学習情報バンクをどうしていくべきか、今あるものを工夫、もしくは新しいアイデアをいただき、地域の活性につなげたいと考えております。

また、津市のホームページのデザインが今後変わるため、今回のグループワークで出たご意見を、ぜひ参考にさせていただきたいと思っております。

詳しくは資料3をご覧ください、「つながる」ためにできることのテーマで、情報発信のツールの一つとして生涯学習情報バンクの活用方法についてお話していただければと思います。以上となります。

### 井澤委員長

では、2つのテーマについて、社会教育委員としての役割や実践できそうなこと、アイデアを出し合っていただければと思います。「みんなが集まる公民館」と『「つながる」ためにできること』についてお話をしていただけたらと思います。話し合い後、順番に発表をしていただき、質問等の時間を設けたいと思います。グループワークの進行係、記録係、発表者は事前にお声がけさせていただいております。各グループの机に、記録用紙を置いてありますので、解決策等を記入していただき、発表の際の資料としてご利用ください。また、参考にお話を聞かさせていただくため、各グループに事務局1人ずつ座らせていただき、その他職員も随時回らせていただきます。では、11時15分までグループワークをお願いします。

### 【グループワーク】

### 井澤委員長

それでは、お時間になりましたので事項書4「発表・質疑応答」に移る前に5分間の休憩としたいと思います。

### 【休憩】

### 井澤委員長

では、Aグループからお願いします。

### 伊東委員

公民館に対するイメージについてです。気兼ねなく訪れられるような、新聞やお茶があり、休憩ができたような場所でしたが、今は講座の構成に関しても、既にコミュニティが出来上がっており、そこに新しく加わろうというような気持ちが持ちづらい、そういう仕組みがあるということでした。

以前は私が勤務していたところでは、親の世代の交流もありましたが、いつからか疎遠になっています。例えば、冠婚葬祭の場として公民館が使われていましたが、徐々にニーズが多様化し、有料であれば民間の方が良いということもあります。今後生きる道としては、その代替可能性が民間ではなく、無償でできるものを突き詰めていくということが1つの方法だと思います。方法として、教育長からのお話のように中学校の部活動が地域移行する中で、既存の部活動の類型で活動しない生徒が、どこに行くのかということがあります。例えば地域マネジメントです。政治家のような活動になってきますが、政治家になるにはお金がかかります。地域の中で自分たちの自治を担うということを参画して取り組んでいけるような、部活ではないですが、そのような場を公民館に

し、中学校までは基本的には居住地が決まっていますので、自分の地域の改革を自分たちの考えで参画して実現できるということを少しずつ実現して、地域に当事者意識、地域づくりに携わる当事者意識を持てるような1つの場に公民館があるかもしれないということをお話ししました。あとは、やはりニーズが多様化していて、集まる理由がなかなかありません。

また、批判があるかもしれませんが、子どもが喜ぶ任天堂スイッチです。任天堂スイッチをきっかけに集まり、騒がしさを受け止める心を持ちながら、自宅でも学校でもないような場所で、上下関係もなく横の繋がりで楽しめるような、自由に任天堂スイッチをし、みんなで遊んでも良い場所があれば、1つのきっかけになり得ないかということでした。送迎の親も来るため、親も必然的に公民館に行きます。公民館が無償の場としてそのような場になり、公民館実利用者、公民館の関係人口をつくっていくようなイメージでいけば、もう少し使われ方も変わるのではないかと考えました。以上です。

### 井澤委員長

ありがとうございます。続きまして、Bグループの発表をよろしくお願いします。

### 水平委員

Bグループは樋口先生に司会進行いただき、赤塚さんは公民館の学習グループ連絡協議会の会長のため、公民館の講座についてよく知ってみえるということで、それぞれの利用状況についてお話がありました。赤塚委員は、中央公民館、敬和公民館、どの公民館も講座に参加されたり、自主講座もされており、かなりの利用率があるということです。一方、私は、会議の場として公民館を利用することが多く、月1回以上必ず会議で公民館を使わせていただいています。無料での貸館ということで、なかなかその講座生と貸館利用というような団体との繋がりは少ないと話がありました。また、講座についても、午前、午後ということで、昼間の講座が多いので、その時間に参加され、夜間や休日はイベントや会議で講座も少ない。サラリーマン等みんなが集まるようなことをしようと思うと、そのような講座があっても良いというお話も出ました。

また、津市には公民館がたくさんありますが、児童館は非常に少ないです。児童館は子どもが集まったり、放課後に小学生、中学生が来たりということもありますが、そのような役割の部分が各地域には少ないので、少しずつ公民館でできると、公民館に行く子どもたちや人が増えるのではないかと話がありました。

『「つながる」ためにできること』については、様々な団体さんが集まり自己紹介をするとか、そのようなことでも凄く勉強になることがあったり、交流ができれば良いというお話もありました。Youtube等、今時の発信をすることも1つです。

公民館でやってる文化祭については、講座やグループの成果発表という意味合いが強く、地域の方が見に来たり、参画するところは少ないのではというお話があり、そのようなことができると、中央公民館を中心に地域の人たちが参画できるようなものができたら良いと思います。

そして、部活動の地域移行で土日に様々な活動に参加できるような機会ができてきたということで、例えば公民館でも中学生向けの講座ができ、拠点型と教育長が言っていましたが、スポーツは結構拠点型になると思いますが、文化講座的なものが少ないです。各地域の公民館が中学生向けの文化講座みたいな、部活動みたいなものことができると、そこへ中学生が集まってくるようなこともできるのではないかと考えます。ありがとうございました。

### 井澤委員長

ありがとうございます。続きまして、Cグループの発表をよろしくお願いします。

### 綺堂委員

Cグループは、公民館を中心としていかに繋がるかというお話がありました。公民館の館長の力はやはり大きく、館長がどのような目標にするのかが重要です。その中で、公民館ではなく、コミュニティ施設になったところがあるという情報をいただき、その際には、館長ではなく塾長と呼ばれている、そのようなインパクトを与えるようなスタッフも良いのではないかと思います。

それから、公民館で行われる生涯学習は、今学んでも講座に来ている方たちがすぐ帰ってしまい、繋がりが薄いです。薄い理由として、リーダーになる人が減っており、講師にそのリーダーに

なってくれるように流れを作ってもらっています。しかし、自主講座を作る仕掛け作りはしていますが、うまくいかない状況から、講師を作る方法はどうなのかと話しました。情報提供として、長久手市で公民館講座の養成講座があるというお話がありました。講師を養成することにより、若い人が入ってくる可能性があります。講座を利用する方も講師の方も新陳代謝になるという話がありました。講座の見える化として、中央公民館で体験講座をしているという情報がありまして、それをもっと広げていくというのも良いのではないかと考えました。多年齢の幅広い年齢層を繋げるとして、興味、関心という点と年齢を関係なしに、興味、関心で集まり年齢を広げるということで、レクリエーションを講座として行い、学んだことを家で行うと、孫とおばあちゃん、おじいちゃんと一緒にできるのではないかとということで、実際しているようです。興味、関心をもっと広げて、講座を作るというのも良いと思います。

また、情報の共有化が重要という話も出ました。公民館に行けば地域が分かるのとすると、まずは公民館に行き、情報を得ようという流れができ、子どもたちと高齢者がうまく繋がると良いと思います。しかし子ども達が地域にもっと出ていくきっかけを作るために、部活動を利用したら良いのではないかと話も出ました。地域部や新聞部のようなものを作り、子どもたちが地域に出て取材するような動きがあると、子ども達が地域を知るきっかけになり、地域との触れ合いにもなります。

また、企業を巻き込んだ取組も必要です。企業には、様々なスキルを持った方がいるので、スキルを持った方との連携講座を作っていくということについてもお話がありました。そして、モバイルをもっと活用して、例えば、生涯学習情報バンクのアウトプットとしても、検索をしやすくし、データを取りやすくするという状態に変えて、アプリを作るなどすると良いと思います。津市のホームページが変わるということなので、それに合わせ、検索をしやすく、データが取れるようにしていってどうかという話も出ました。

最終的に社会教育委員に公民館を知ってもらう取組も必要ということで、社会教育委員と公民館がマッチングする場所を話し合うことも重要ではないかという形で話が締めくくられました。以上となります。

### 井澤委員長

ありがとうございました。質問や、各グループに聞いてみたいということがあればいかがですか。

### 綺堂委員

公民館の関係人口を作る A グループの話ですが、無料に特化するということは、サードプレイス、場所として凄く良いと思いました。無料に特化する方法を模索するというところで、地域の人たちは、公民館に行けば何か集まるというところには、行政がやるということの意味がより生まれてくる気がいたします。

### 伊東委員

そうですね。趣旨としてはおっしゃっていただいたとおりです。

昨今の物価高があり、私たちが消費者意識として、お金を出すということに対し、ある意味出すのではなく、かなり精算してお金を出すようになっていると思います。その実現度を見た時に、実現度が低ければお金出さないという選択肢を取らざるを得ないかと思います。そうすると、無償というのは、結局は原資は税金なので、回り回って払ってはいいるのですが、ハードルは一気に下がり、これは民間、大体可能性がほぼないところとっております。そこにどのような切り口で持っていくかというところですが、今後、バランスが大事になります。しかし、バランスを重視しすぎず、ある程度振り切ってやってみるという点が差別化を図る一種のマーケティング志向ですが、余地はあると考えました。

### 井澤委員長

教育長さん等、ここを聞いてみたいということがありましたら、お願いします。

### 学校教育部長

ありがとうございました。学校教育部が今1番の課題としているのは、部活動の今後の地域展開ということで、今どうしていこうかということ、様々な方からのご意見を聞かせていただきながら模索しているところです。今日、皆さんからのお話の中で、やはり子ども達が中学校に上がった途端にもう部活一色になって、もう土日なく活動してる状況があったけれども、それが土日が子ども達が選択できる状況になるので、その選択肢の1つに、やはり地域で子ども達が活躍するところ、地域の方と一緒に何かをしていくということが選択肢として出てくると思います。

また、公民館で子どもたちが展開するようなこともできると思いました。地域学校協働活動について地域とともにある学校教育としていますので、そのような点も、子どもたちが中心になりながら、土日の時間が選択できることにより、様々な活動が可能になってくるのではと思いました。今日聞かせていただいた話を、地域とともにある学校教育担当者や、部活動の担当者にも還元させていただき、違うところで動いている機関も繋がりながら、情報交換させていただけると、さらに、子どもたちに繋がっていくと思いました。どうもありがとうございました。

### 井澤委員長

今日はグループワークの発表をいただいて、本当に実りのある時間になったかと思えます。社会教育委員はともに考え、実践に移していくことが求められているということ、まさに今日一緒に考え、一緒にこれから取り組めると良いと思います。委員同士の活動をお互いに知り、出てきたアイデアを参考にしながら、事務局とも協力してそれぞれで活かしていけたらと思います。第3回につきましては、今回出していた意見を事務局と整理しながら考えていきたいと思えます。では、事項書5のその他についてですが、事務局から連絡ありますか。

### 事務局

2点ほどお知らせいたします。第3回の津市社会教育委員会の開催につきましては、2月頃を考えておりますので、ご連絡をさせていただきたいと思えます。

また、中ブロック研修会が松阪市の嬉野公民館で12月16日火曜日13時半から行われます。ご参加いただける方はまたよろしく願いいたします。以上で終わります。

### 井澤委員長

本日の事項は全て終了いたしました。これにて会議を終了させていただきます。できるだけ多くのご意見をいただきたくて、グループワークという形を初めて取らせていただきました。担当者をはじめとして、事務局の方には、色々な意味で事務的なこともちょっと今までのパターンと変わってのもので、随分ご苦勞やお手数をおかけしたと思えます。どうも本当にありがとうございました。これにて全ての会議を終了させていただきます。では、事務局の方にお返しいたします。

### 事務局（副参事）

中央公民館の館長として、身の引き締まる思いになりました。様々な意見をありがとうございました。普段の会議ではなかなか意見いただけない方からも多くの意見を聞き、大変勉強になりました。

この会議室は12時まで開放しておりますので、ぜひこの後も意見交換やご自身の活動の紹介などをしていただく時間として利用していただけたらと思います。

それでは、会議を終了します。